

## ■今月の特選句



## ものぐさでぐうたらずぼら秋刀魚焼く

白井道義

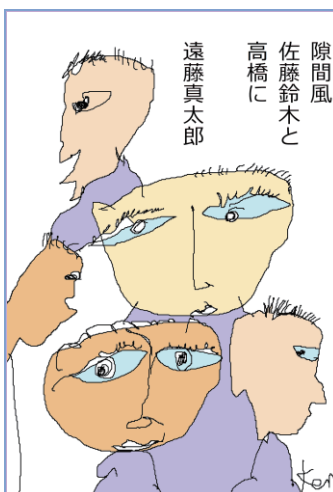
定年を迎えて何年か過ぎた男の生活ぶりが垣間見える。お気楽、平穏な毎日は、幸せと言えば幸せなんだが、どこことなく悲哀もある。



## 天ぷらにされる積もりもなき紅葉

藤森荘吉

大阪箕面市は紅葉の名所。「日本の滝百選」の箕面大滝があり、紅葉の天ぷら屋さんが並ぶ。美しいものを食べたいという願望と罪悪感が裏腹。

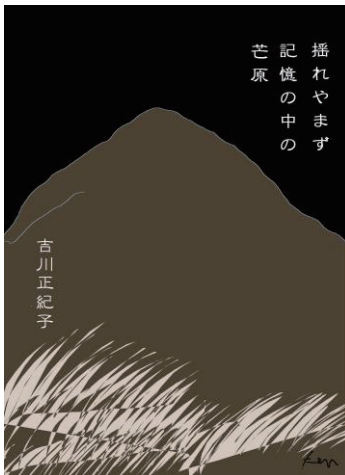


## 隙間風佐藤鈴木と高橋に

遠藤真太郎

日本人の名字の数は十万とも二十万とも。なかでも佐藤、鈴木、高橋は最も多い。どんな間柄でも隙間風が吹くことをうまく一句で表現。

## ■今月の特選句



## 揺れやまず記憶の中の芒原

吉川正紀子

芒原は作者の中の忘れえぬ風景の象徴でもある。揺れるとは、芒でもあり、作者の心の動揺でもある。具体的な場面は読者の想像に委ねられる。



## 裏表選べぬままに色葉散る

井口夏子

世の中はままならぬものです。色葉にしても華麗に舞いながら散り、美しい表のままに着地したい。天ぷらという意外な余生もありうる無常よ。



## 雑炊で皆幸せな結末に

八塚一青

政治がどうの経済がどうのと口角沫を飛ばした宴会も、最後の締め雑炊で「まあなんだな、いろいろあるけどお互い頑張ろうや」という結論に。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

渋皮煮短い秋を保存する ・・・栗もおそらくその気になつて	鈴木和枝
蒼穹の深きところに熟柿かな ・・・長い梯子を借りて来ようか	相原共良
尻取りのいつも躓くすいつちよん ・・・すいつちよとして躓き避けよ	工藤泰子
おさがりのくせがそのまま糸糸玉 ・・・元の持ち主癖が強くて	森岡香代子
常備薬間引きしている良夜かな ・・・効果は似たり寄つたりなれど	南とんぼ
単数が複数となり木の葉髪 ・・・複数の先想像するな	稲葉純子
蓑虫の正体を見てしまったの ・・・人間とても見てはならぬを	上山美穂
黒塗りの書類大事や文化の日 ・・・塗られたところが知りたい部分	西をさむ
月仰ぐには尾てい骨伸ばさねば ・・・樹上の猿も月を愛でるや	桑田愛子
G o T o にそーとあい乗り神の旅 ・・・神と相乗り肩が凝るじゃん	長井知則
どんぐりの余生は角を生やし独楽 ・・・いやいやだとして回らにやならん	山下正純
錦秋の人馬一体スローモーション ・・・記憶の中で何度も再生	小笠原満喜恵
蓑虫や日影の日日に長くなる ・・・蓑虫版の日時計ならむ	稲沢進一

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

バスに乗る柿のひとつを手渡され

帰るべき里に帰れぬ豊の秋

生身魂抱きしめないで骨粗鬆

大馬鹿の柚子のお恵み冬至風呂

古妻とコロナが居座る年送る

湯の宿の朝餉夕餉に馬肥ゆる

よそ見してすつてんころり初紅葉

年取らば夜長えーい寝てしまへ

効くならば秋のアマビエ平和賞

文化の日明治節(めいち)は遠くなりけり

いつのまに生傷かくも敬老日

佇みて杖の一步のしぐれゆく

流行風邪ワクチン打ちて打ち負かす

行秋や読書一頁即昼寝

老いて蹠踉彼岸此岸の間をゆく

ハロウィン月を捜せば屋根の上

灯火親し使いこなせぬ電子辞書

仕事辞めは図書館デビュー文化の日

冷蔵庫に熱き焼芋入れてみた

探しても甘き檸檬のなかりけり

童貞聖マリア無原罪の御孕りの祝い日より蠟八会

木守柿届かぬところありにけり

湯豆腐の蓋を開けば湯気ばかり

ピクルスは浅漬けの如パリの宿

いち早く終へ自販機の冬支度

山々は装ひ今は思案中

大願を気楽に頼む神の留守

神の旅万全を期しオンライン

声自慢鳶びーひょろ唄ひ出す

短調のとぎれとぎれの秋の雨

秋空の真青に真白の天守閣

秋夕焼蕪のからまるアンの家

秋空をどこへ行くのか迷子の雲

塾前に駐車が多しクリスマス

狂い咲き一身上の都合かな

三本締めのお零れもらふ酉の市

木枯に草食系のありにけり

食欲の秋いよよマスクが邪魔になる

相原共良

相原共良

青木輝子

青木輝子

青木輝子

赤瀬川至安

赤瀬川至安

赤瀬川至安

荒井 類

荒井 類

荒井 類

井口夏子

井口夏子

池田亮二

池田亮二

石塚柚彩

石塚柚彩

石塚柚彩

伊藤浩睦

伊藤浩睦

伊藤浩睦

稲沢進一

稲沢進一

稲葉純子

稲葉純子

井野ひろみ

井野ひろみ

井野ひろみ

上山美穂

上山美穂

梅野光子

梅野光子

梅野光子

遠藤真太郎

遠藤真太郎

大林和代

大林和代

大林和代

## 紅葉のお面をつけて天狗岳

ひよどりが食べても食べても柿たわわ

熊もまた過疎の村から人里へ

## 売られゆく牛の眼潤む神の留守

冬の薔薇切磋琢磨をかかげ逝く

百舌鳥は枝母は冷凍庫にはやにえ

焼いたのは嫌とぼやかれ焼き林檎

## 干し柿や冷凍庫にも去年組

## 秋雨や宇宙からのシンフォニー

バッハよりお経聴きゐる夜長かな

秋風に枯葉の舞へば秋思かな

紙屑がいっしょうけんめい穴惑い

古書店をくるくる回る秋の風

## 行く秋のうつらうつらとど根性

## 忘備録リストへ松茸の一片

報道の過熱にしらけ南五味子(さねかずら)

## 星月夜河馬は宇宙に口を開く

風のコスモスおかあさあんと呼んでゐる

## リベンジを誓ふ兎のまた眠る

動かざる寒鯉軸にしたてられ

冬の蠅供物をすべる体たらく

## 秋の蚊や蚊遣香消えまつすぐに

さつま藩隣の畑に蔓侵入

一切れの魔法の試食林檎狩る

三日月村郷の案山子や紋次郎

## 徒競走ビリが飛び込むママの胸

赤い羽根胸に堂々しらを切る

## 親主役子は脇役や七五三

秋深し今夜もコロナのニュースから

## 暫くは空地に返る刈田かな

ペコちゃんポコちゃんが飛び出てくるボタンだ

つるんと枝豆我慢してたんだね

## すずめにも優しくなつて捨案山子

宝塚ラインダンスは冬の虹

その男世渡り上手温め酒

## 潔いは英語にないの日短

目の薄し小鳥と見れば皆枯葉

寄り道の気配もなしに鳥渡る

## 小笠原満喜恵

小笠原満喜恵

岡田廣江

岡田廣江

岡田廣江

加藤潤子

加藤潤子

加藤潤子

金城正則

金城正則

金城正則

久我正明

久我正明

久我正明

工藤泰子

工藤泰子

桑田愛子

桑田愛子

小林英昭

小林英昭

小林英昭

佐野萬里子

佐野萬里子

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

高田敏男

高田敏男

高田敏男

高橋きのこ

高橋きのこ

高橋きのこ

季語からは外して欲しきマスクかな  
 口超へて物言ふ眼マスクせば  
 泣き笑ひ他人に無縁の日記果つ  
 すすき野に夫は埋もれてしまいきり  
 きちこうの枯れて無人の大鳥居  
 草の花貯鉢庫跡のてっぺんに  
 座頭市渋柿齧り吐いてみせ  
 誰その寝首をかくや蠅螂は  
 長き夜のどん底地帯の酒盛り  
 退院の夫にハグする日焼婆  
 スイッチオン老々介護の秋の夜  
 ヴィオロンの溜息婆も秋の夜  
 予防注射や風邪は引かぬと信じつつ  
 「書き取る」を「柿採る」と聞き違え  
 ごみだしの帰りにおなもみ連れ帰る  
 公園にお化けや姫がハロウィーン  
 前世は猫だと感ず小春日に  
 夜の長し子守唄なる夫いびき  
 階下りて何用だっけ秋の暮  
 張り込みの刑事の腰に熊の鈴  
 「あしまとひ」誰れのことかと聞かれけり  
 新米やあとひとくちの盛りのよさ  
 松茸の木箱は要らぬ値を引いて  
 龍潜む淵までカーナビ検索す  
 落鰻いのちのリレー俺カレー  
 狙い撃ちこだましている秋麗  
 話がピーマン昭和のおじさんよ  
 居るだけでいいよ父さん敬老の日  
 立つて居るだけで絵になる案山子かな  
 秋高しビルの谷間の休耕田  
 丸い背の冬耕ひとり田は広し  
 濡縁の足の爪切る冬日和  
 ひさかたの今宵はふたり温め酒  
 化粧水たつぷりつけて冬支度  
 コロナ禍でおちおち風邪も引けぬ世に  
 蒲団着て寝てゐるとき屋島かな  
 コロナ禍に負けぬビールの渦と泡  
 呆けかけの頭にどんぐり一撃  
 スマホに目落としたままや尊徳忌  
 立ち止まりじつと見つめるマスク同士

竹下和宏  
 竹下和宏  
 竹下和宏  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中早苗  
 田中早苗  
 田中早苗  
 田中晴美  
 田中晴美  
 田中晴美  
 谷本 宴  
 谷本 宴  
 谷本 宴  
 田村米生  
 田村米生  
 田村米生  
 月城花風  
 月城花風  
 月城花風  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 長井知則  
 長井知則  
 西をさむ  
 西をさむ  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 久松久子  
 久松久子  
 久松久子

長き夜をいきいき光る針の先  
 湯上りの背な無防備の夜寒かな  
 ラフランスいつもなんだか楽しさう  
 人の世の信号を無視浮かれ猫  
 コロナ禍の柿も自肅か実を付けぬ  
 店頭のサンマ威張ってゐるやうな  
 秋の灯のランプシェードが顔に見え  
 秋空に軽重問はれ熱気球  
 早寝早起きしてゐる吾に夜の長し  
 秋の旅皆行くから我れも行く  
 秋うらら葉で生きて生かされて  
 まだ無事の家族の旅や秋あかね  
 GoToGoTo紅葉が誘う旅の空  
 混む車内熊手頭上で密を避け  
 おだてられ浮いた日もあり日向ぼこ  
 ゴーツー使ひ八百万の神の旅  
 なつかれてじんべゑ鮫を買ふことに  
 山眠る死ぬまで同じ山を見て  
 大噓ルーペで覗く効能書  
 どんぐりのお金で豪遊おままごと  
 秋の朝吾子が初めてなにか言い  
 赤と黄の葉っぱで貼り絵秋の道  
 人の世の不屈き者や稲雀  
 名月やうさぎはいつも日本向き  
 名月や無言にまさる言葉なし  
 盆踊り調子はずれは酔っ払い  
 今日月海のかなたに置き去りに  
 だしぬけに門に立ちたる秋の風  
 檀の実怒りはやがてをかしみに  
 秋風裡芯の芯まで渴ききる  
 物語のひとつやふたつ十三夜  
 団栗も自分探しか我は我  
 裸木の自由虚栄の色を捨て  
 AIに遅れをとりし文化の日  
 西高東低冬将軍の作戦図  
 自らの色を呟き吾亦紅  
 縄跳びが止まらなくなる夢を見た  
 無伴奏チェロ組曲と罪な咳  
 法の網何度もくぐり雁渡る  
 湯冷めして選挙の話沸騰す  
 おでん酒奥歯挟まるものは何

日根野聖子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 藤森荘吉  
 藤森荘吉  
 細川岩男  
 細川岩男  
 細川岩男  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 椋本望生  
 椋本望生  
 椋本望生  
 向田将央  
 向田将央  
 向田将央  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村山好昭  
 村山好昭  
 村山好昭  
 百千草  
 百千草  
 百千草  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 八木 健  
 八木 健  
 八木 健  
 八塚一青  
 八塚一青  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳 紅生

見上ぐれば愛猫そつくり秋の雲  
 大き栗うっかりつまづきさうなほど  
 すすきの穂風にゆらゆら身を任せ  
 止まり木を探す男やきりぎりす  
 食い逃げの常習犯や稲雀  
 冬に入る体はついて来ないけど  
 早寝して明日のおめざは今年米  
 白か黒かウールか綿かカーディガン  
 三日目のおでんに足すや「あご野焼」  
 末期(まつご)の火桜紅葉の赤ら顔  
 蓑虫となりて毛布を住处とす  
 新米といふ味楽しむしばらくは  
 なつかしきインド林檎のセピア色  
 霜降やガラスの食器仕舞はねば  
 玉葱の一片ぬいた美しさ  
 ふちどりをワインの赤で秋桜  
 バラ園のどれも名を持つ秋のバラ  
 栗きんとん丹波生まれを鼻にかけ  
 秋冷やトラベル転じトラブルに  
 暮早し旧家の大樹消えにけり  
 独り居にかぶさってくる夜寒かな  
 逝く秋や卓に残りし柿の蒂  
 年末の賞与欲しいと老妻(つま)が愚痴  
 冬空に月光仮面かダビットソン  
 物の怪が透かし見ている年用意  
 渋柿のたわわや枝の五十肩  
 北窓は開けつ放しのウィズコロナ  
 ラテにホイップたつぷり冬ひき寄せる  
 秋日和どこかにコロナうごめいて  
 戀の字にふはつく婆の秋の夕  
 青首の並び大根モアイ像

柳澤京子  
 柳澤京子  
 柳澤京子  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 山内 更  
 山内 更  
 山内 更  
 山下正純  
 山下正純  
 山田真佐子  
 山田真佐子  
 山田真佐子  
 山本 賜  
 山本 賜  
 山本 賜  
 横山洋子  
 横山洋子  
 横山洋子  
 吉川正紀子  
 吉川正紀子  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 渡部美香  
 渡部美香  
 渡部美香  
 和田のり子  
 和田のり子  
 和田のり子